軍艦島（端島）における ろうあ者の生活について

吉田　宏

皆さん、こんにちは。今紹介して頂きました、吉田と申します。よろしくお願いします。お話をする時間が１時間で大丈夫かどうか心配ですが、どうぞご覧ください。

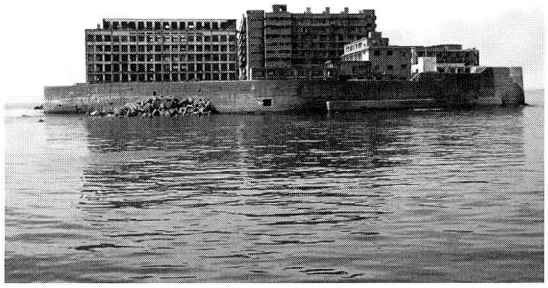
皆さん、遠いところからお越しいただき、本当にありがとうございます。本日の講演のテーマは「軍艦島」です。何度か聞かれたこともあると思いますが、新聞等のメディアで報道されているように、今年の４月22日から一般公開され、上陸して見学ができるようになりました。

「軍艦島」とはどういうものなのか、以前はどうだったのか、何故閉山になったのか等、わからない部分もあると思うので、それらについてお話しをしたいと思います。時間内にお話しできるかどうかわかりませんが、最後までご覧ください。よろしくお願いします。では、始めさせて頂きます。

本当は、今この画面に出ている項目全てをお話ししたいのですが、全部話すとなると６時間くらいかかってしまいます。しかし、1時間と言われているので、かなり割愛しなければなりません。割愛して凝縮してお話しすることをご容赦ください。

今、画面に地図を出しています。地図の上の方に長崎市があり、そこから南下して赤丸で囲ったところ、距離にして18～19kmのところに位置する島です。「端島」という漢字は「はたしま」「はしじま」等、いろいろな読み方があると思います。この島の場合は「はしま」と読みます。

この島には「軍艦島」と「端島」２つの名前がありますが、「軍艦島」は日本の島の通称・俗称であり、「端島」は正式島名です。一般的には「軍艦島」と呼ばれることが多いです。島の大きさは、東西160m、南北480m、周囲1.2km、岩峻の高さ海抜47.7mという小さな半人工島です。土地の広さがどのくらいなのか、想像できますか？全国各地から集まってくださってる皆さんに分かり易く示すと、この画面に出ている東京駅の大きさと同じくらいなんです。駅のホームの端から端までと同じ大きさです。意外と小さいですよね。考えられませんが、この大きさの場所に人がたくさん住んでいたんです。5,300人ですよ。凄いです！



では、なぜ「軍艦島」と呼ばれるのか？戦時中、アメリカ海軍潜水艦が「戦艦大和よりも大きな軍艦がある」と間違えて魚雷を発射、しかし、びくともしない。再度、討ってもびくともしない。事実、昭和20年６月11日にアメリカ海軍潜水艦「ティランテ」の魚雷攻撃を受け、石炭運搬船「白壽丸（3,600トン）」が被弾沈没しました。漸く、アメリカ側は軍艦ではなく島であることに気付いたんです。今、画面上に写真が出ている「戦艦土佐」に島の形状がよく似ていたんですね。だから、アメリカ海軍潜水艦は島を軍艦と間違えたんです。（戦艦土佐と軍艦島の写真を画面上で比較）

この島には5,300人が住んでいましたが、それがどのくらいの多さなのか説明したいと思います。想像できないくらいの人口密度ですよ。１km²当たりで換算してみます。東京では１km²に5,500人、福岡は１km²当たり1,009人、では、軍艦島はどうだったのか？島の大きさは480m×160mなので、１km²ということはに約12個の島が入る計算になります。それで換算すると5,300×12＝63,600人という驚異的な人口密度になります。凄いです。他にはない、人口密度世界一である。

その驚異的な人の多さを写真でご覧ください（市で買い物をしている島民の写真数枚）。

凄いでしょう！東京新宿駅の朝のラッシュアワーくらいの多さ。または、上野のアメ横でお正月前の買い出しをしているくらいの人の多さです。これが毎日の生活の様子なんです。

では、どうして閉山になったのでしょうか？国によるエネルギー転換政策の煽りのようです。石炭から石油へ時代が移ったのです。便利な時代になり、中東から大型貨物船で石油が運ばれてくる

ようになって、コストのかかる石炭から石油へと変わっていきました。コストを換算すると石油のほうが良いということで、石油の時代に変わっていきました。

軍艦島は黒字のまま閉山を迎えたのです。では、なぜ無人化したのか？それは、島全体が三菱の所有であったこと、また端島には炭坑以外の産業も無く、時化の時には海水を浴びるため植物も育たない、ということでしょう。そうして、島民のいなくなった軍艦島は廃墟となっていったのです。廃墟…どう手話表現したらよいか…このような表現でいいでしょうか（建物が崩れる様子）。私は日本全国あちこちの廃墟を30ヶ所くらい見てきましたが、やはり「軍艦島」が日本最大の廃墟日本一です。高層の建物群が廃墟になっている様子は、他とは比べものになりません！

「心霊」について…、皆さんそれぞれに考え方も違うので「それは嘘だろう」と信じない方もいるし、信じる方もいるでしょう。それは皆さんにお任せします。でも、私はいろいろな失敗談（心霊体験談）を聞いており、自分はそうなりたくないので、信じているほうです。ただ、時間の都合上、今日はその話は割愛させていただきます。

「軍艦島」を注目する理由は軍艦島の魅力・炭坑の技術・建築の様式・コミュニティの形成です。高層住宅の建築にも珍しいものがあります。鉄筋コンクリート高層住宅、これは日本で初めてのものです。大正５年に建てられました。他の地域では木造の平屋一戸建てだったのに、ここでは鉄筋の高層住宅が建てられていたのです。

日本初の海底水道、これはどうやって作られたのか。また、日本初の屋上庭園、これもこの時代に珍しいものです。船が接岸する際に波の高さに合わせて上下する可動式の桟橋、これも日本で初めて造られたものです。この島には「日本で初めて…」というのが多くあります。自慢できるたくさんの物があるわけです。

（画面を指して）これは何年だと思いますか？昭和49年です。この年に閉山したんです。私はまだ小学校４年生、悪ガキの頃ですね。昭和49年、社会はこのような（画面上に昭和49年に起こった主な出来事を列記）時代でした。

軍艦島の歴史を少しお話したいと思います。正式な文書には書かれていませんが、裏話を少し…。昔、この島は囚人が連れてこられた流刑の島でした。島で囚人が労働をさせられていた際に「この黒いものは何だ？」と見つけたのが石炭だったのです。それがお金になるということで、囚人は他に移され、三菱がその島を買い取った…ということです。これは初期の頃の様子です（当時の採掘現場の様子）。技術や機械もなく、人の手で採掘し馬に運ばせている様子です。その後、お金も儲かるようになり、設備投資・機械化が進んでいきます。

しかし、その裏では…、戦前・戦中のことは皆さんもご存知だと思いますが、韓国や中国から強制収容し、無理矢理働かせていたという事実があります。日本人が指示し、厳しく、賃金も安く、食べるものも満足に与えず、病気になっても働かせていました。逃げたくても島なので逃げられず、夜の海を泳いで逃げようとして途中で力尽き、沈んでいった者もいたそうです。

戦後、石炭生産合理化政策の波が押し寄せる中、昭和39年（1964）年に坑内で自然発生した火災消火のために最深部を水没させ、以降約一年、ぼた（石炭以外の残土）ばかりの産出が続きました。島内にはリストラの風が吹き荒れ、約2,000人が島を離れていきました。

以前は３交代で２４時間操業、夜でも煌々と灯りがついて不夜城のようだったのですが…。現在、灯台の灯り１つだけになってしまいました。

その後、国のエネルギー政策の石油への転換等により昭和47年（1972）採掘終了、昭和49年（1974）安全上採炭できる石炭は全て掘り尽くした「終掘」の状態で閉山。労使和解の和平的閉山で、炭鉱としては珍しい黒字閉山で約80年続い

た炭鉱の時代に幕が下ろされました。

この画面（謎の便所・写真）について少しお話ししたいと思います。この写真を見て、ちょっとおかしいと思いませんか？私も初めて見たときには変だと思いました。普通は便所に入ったらこのようにまっすぐに座って用を足しますよね（実際に便所に入る様子を演じる）。隣の便所も同様にまっすぐの作りになっている、それが通常ですよね。

しかし、この便所は便器が斜めに配置されており、後方向かい合わせになっています。両隣が後方向かい合わせで斜めに配置されている…不思議だと思いませんか？でも、その理由については説明を省かせていただきます。面白いところなのですが…、申し訳ありません。

次に、この写真（お風呂の写真）を見てください。女性の浴槽は大きくて、男性の浴槽は小さい。不思議だと思いませんか？これも「なるほど！」と思うところなのですが、時間の都合で割愛させていただきます。

岩礁の迷宮、この地獄段を上がっていくと…、行きはいいのですが、帰りは大変なんです、帰って来られなくなるんです。上に端島神社があるので、お参りしようと一生懸命上っていき、いざ降りて帰ろうとすると「あれ！？」どう行けばいいのか…迷ってしまいます。逆から見ると、どちらの方向なのか全く分からなくなってしまうんです。何故、分からなくなってしまうのか？これについても時間の都合で割愛させていただきます。申し訳ありません。

この小さな島には全てのものが備わっています。公共施設、寺社、公園、お店、あらゆるものが詰め込まれています。

船が島に接岸するとき、波の高さと島の高さが同じだったらいいのですが、引き潮だったり高さが違う場合、どうやって接岸したらいいのか…難しいですよね。そのため、研究して波の高さと同じように上下する可動式のドルフィン桟橋が作られました。日本初の可動式桟橋です。

この写真は昔の様子です。波に揺られて梯子をよじ登り、落ちたら死んでしまうかもしれないという危険な状態で接岸しています。しかし、可動式の桟橋のおかげで安全に接岸できるようになりました。

次の写真は先ほど話に出てきた屋上庭園ですが、この説明も割愛させていただきます。

軍艦島に上陸したときのビデオを流します。ご覧になってください。

【ビデオ映像内の手話】

軍艦島への再上陸です。２度目なので、１度目とは違う方向から見ていきたいと思います。では、行きます！

65号棟・鉱員社宅は戦前に建てられたものです。１度に建てられたのではなく、１棟建てられて、また次に建てられて…と、建て増しされていったものです。これは「コ」の字型に建っています。島内最大の建物です。

ここは地獄段です。軍艦島の写真などにも載っている有名な場所なのでご存知の方もいらっしゃると思います。何故、このような名前が付いたのか？山の上に端島神社がありますが、そこに行くまでが非常に大変なんです。だから、地獄段という名前が付いたのです。感動的な階段ですよね。では、ここを上ってみましょう！（地獄段を上っていく映像が流れる。その後、荒れ果てて廃墟となった学校・病院・刑務所・住居等々の多数の写真、朽ち果てた様々な物の写真が流れる）

以前、関東大震災という大きな地震がありましたよね。その頃に（財）同潤会は1923（大正12）年９月の関東大震災の震災被害の救済機関として設立された同潤会が日本で最初に建てたと言われている鉄筋コンクリートの建物「同潤会アパート」の写真です。しかし、それよりもずっと前に軍艦島で高層アパートが建てられていたのです。同潤会アパートは1923年築ですが、軍艦島の30号棟は1916年、大正５年に建っています。だから、30号棟は日本で一番古い高層アパートということになります。

軍艦島の建物は必要に応じて増えた建築群。最初から完成された建築物ではなく必要性に応じて

増築する。岩盤や壁面を利用した建築群。建物同士を結ぶ連絡通路の発達する。

少しずつ建て増しされて、どんどん広がっていきました。軍艦島は元々は小さな岩礁の島でしたが、埋め立てて、護岸工事をして、どんどん大きくなっていったんです。だから、迷路のように繋がっており、雨の日も傘を差さずに端から端まで行くことができるんです。凄いですよね！

この写真は「軍艦島を世界遺産にする会」理事長・坂本道徳さん、健聴者です。私もこの会の会員として活動しています。彼はこの軍艦島で生活していた元島民で、この建物の最上階で生活してました。詳しく話したいのですが、時間の都合もあるので、先に進めます。

これまでのお話で、軍艦島のことを皆さんに分かってもらえたと思います。この話をせず、いきなり元島民のろうあ者のことを説明しても、話が結びつかないと思うので、軍艦島の概要を話させていただきました。

この方が軍艦島で生活されていた元島民のろうあ者です。長崎ろう学校卒業生の福富砂雄さんです。これは福富さんから昔の写真を見せてもらっている様子です。写真を見せてもらいながらいろんな思い出話を聞かせてもらったのですが、その時間はなんと７時間！７時間ず～っと話し続けたんです。本当にたくさんのお話しを聞かせてもらいました。

現在の軍艦島の写真です。朽ち果てて廃墟になっています。これは昔の写真で、福富さんが桟橋のところに立っている写真です。回りは護岸された桟橋付近です。こちらは現在の様子です。（昔と現在の写真を比較）

これは福富さんが手摺りにもたれているところを撮った写真ですが、その向こうにあるのは端島小中学校です。こちらは今現在の廃墟になった端島小中学校の写真です。端島小中学校の横の建物の５階、そこ（写真上の実際の場所を指して）の手摺りのところで撮ったんですね。福富さんは島内でずっと同じ所に居住していたのではなく、島内を３回引っ越したそうです。最初の所から別の部屋に引っ越して、また別の棟に引っ越したとのこと。もっと詳しく話したいのですが、時間の都合上、先に進みましょう。

「端島」の手話表現は、歯を指して「歯・島」という手話表現を使っていたそうです。兄弟は健聴者とろうあ者、合わせて５人。一番上が車椅子使用の身体障害者、二番目がろうあ者、三番目が知的障害者、四番目が福富さんでろうあ者、そして五番目の末っ子もろうあ者です。兄弟５人の内３人がろうあ者であり、５人全員が障害者ということになります。何故、そうなったのか？

昔は親族同士が当たり前だと思われているけど…従兄弟同士…近親者との結婚により障害者が生まれたのです。

では、5,300人の中に何人のろうあ者がいたんでしょうか？島には６人のろうあ者がいたそうです。5,300分の６です。福富さんの兄弟３人の他は、炭坑で働いている方の子どもで年齢も様々だったようです。現在どうされているかは分かりません。

福富さん一家はこの島で長く生活していました。５歳の時に島に移って、23歳までの18年間、炭坑が閉山し島を退去するまで、この島で暮らしていたそうです。

これは当時の家族写真です。ご本人、ご両親…炭坑夫をされていたお父さんは亡くなられましたが、お母さんは健在です。かなり歳をとられてますが、私はお会いできて本当に感動しました。

福富さんが島に移ったのは５歳の時なので、まだ小学校に入る前、幼稚園の頃です。この島には幼稚園もあります。端島幼稚園です。幼稚園をイメージすると「地面にブランコや滑り台があって、そこで楽しく遊んでいたのかな、1階庭に幼稚園があったのかな」と想像するでしょ？普通はそうですよね。ところが、最上階にあるんですよ！一番上の屋上！そこに幼稚園があったんです。まだ５歳ですから、朝早くお母さんが幼稚園に連れて行きます。母親達は毎朝、子どもの手を引いて階

段をぐるぐると上がって、屋上の幼稚園まで連れて行く。で、またぐるぐる階段を下りて部屋まで帰り、お迎えの時間になるとまた屋上まで上がって行き、子どもの手を引いて階段を降りて帰ってくる。送り迎えも大変だったんです。中庭はブランコや滑り台がある公園でしたが、幼稚園は屋上だったんですね。

この写真はプールです（屋上にあったプールの写真）。そして、こちらが現在のプール跡です（荒れ果てたプール跡の写真）。この写真は福富さんが若い頃、体育祭のときに撮った写真です。後ろに写っているタイルで描かれた絵は見えるでしょうか？これはとても貴重なものです。生徒が自分たちで記念に製作したタイル絵なんです。こちらは現在のタイル絵の写真です。

この写真は、卒業後…20歳くらいの頃でしょうか。彼は炭坑で働いていました。炭坑でろうあ者が働けるのか、ろうあ者には厳しいんじゃないか、と疑問に思うでしょ？彼は炭坑内での採掘作業ではなく、運搬作業をしていたんです。坑道は地底深くまで続いており、落盤しないように木材で坑道内を補強してあります。その木材等を運ぶ仕事をしていました。

プロの炭坑夫の給与は、普通に町で働いている人の３倍あったそうです。凄いですよね！彼の給与も普通の人の給与と比べると1.5倍あったそうです。

でも、その後２年で炭坑は閉山し、島を退去しなければなりませんでした。止むを得ず従うしかありませんでした。

これは仕事に行く途中で撮った写真だそうです（階段の下に立っている写真）。炭坑夫の格好で撮っておけば記念になって良かったのでしょうが、普通の服で撮った写真です。

炭坑の仕事は危険な場所で汗水流して真っ黒になって行うので、終わった後はお風呂に入り、その汚れを落として着替えてから帰っていたそうです。

こちらは福富さんが若い頃に神社の石垣のところで写した写真です。そしてこれが現在の様子です（神社の今と昔の写真）。こちらは慰霊碑です。炭坑の事故などで亡くなられた方も多く、その方々を祭る慰霊碑も建っています。

次の写真で福富さんと一緒に写っているのは同級生の山口さんです。たまたま軍艦島に遊びに来たときに一緒に写った写真だそうです。当時は軍艦島に一般人で上陸できる。仕事関係者しか上陸させない…などということはなく、自由に出入りできたのです。軍艦島の様子を知りたい、勉強したいということで遊びに来たんですね。今、山口さんは奈良にいらっしゃるそうです。お二人が写ったドルフィン桟橋の写真には柵がありますが、現在の写真では桟橋の柵は無くなっています。

福富さんの結婚式の写真です。ご本人はまだ急がなくてもいい…と思っていたそうですが、炭坑が閉山するので島を退去して両親が名古屋に行くことになっているので「早めに結婚式を挙げなさい」と親から言われ、1974年記念の日に結婚したとのことです。覚えやすい結婚記念日です。

そして、退去してから35年の月日が流れました…。しかし、現在の島の様子は全くご存知ありませんでした。パソコンは得意ではない、本を読むのも苦手ということで、その後の島のことは全くご存じなかったんです。今年の４月22日、軍艦島の一般公開が始まり、観光客が訪れるようになると知っても「どういうことなんだろう？？」と思っていたそうです。

私は一般公開が始まる頃、４月25日に福富さんのお宅を訪問しました。その際に、彼個人のことと３５年間の思いをお訊きしました。ビデオをご覧ください。

【福富さん宅でのビデオ映像】

吉田：福富さんの紹介をしたいと思います。軍艦島で生活していた元島民のろうあ者です。

漸くお会いすることができました。お会いできて本当に嬉しく思います。

貴重なお話しをたくさん聴くことができました。

ご自分の経験談など、様々なことを話していただきました。炭坑の仕事についても、健聴者並には無理だった、ろうあ者ではやはり限度があったということを話していただきました。

こういうろうあ者が島で暮らしていたことは全国的にも珍しく、誇れることです。お会いできて本当に良かったと思います。

このアルバム（表紙「長崎県高島町端島」）に以前の写真が綺麗に整理されています。

35年前の写真をいろいろ見せていただきました。35年が経ち、廃墟になって朽ち果てた軍艦島に、どのような思いを抱いてらっしゃるでしょうか？

福富：ショックで…（感極まって言葉にできず、俯いて涙を堪えている様子）

吉田：35年前…昭和49年４月20日に閉山されて島を去り、それから現在までの35年間、そして現在の軍艦島の状況、福富さんはどんなお気持ちなのか…。

私は様々な写真を撮り、情報を集め、それらを福富さんお見せしようと持ってきました。これらの写真や情報を見てどのように思われたのか、私も心が痛みます。

福富さんの心の痛み、悲しみが伝わってきます…。私は実際に軍艦島に上陸し、廃墟となった様子を見ました。私も同じように35年の月日で廃墟となったことに衝撃を受けています。

ろうあ者の方が軍艦島でどのように暮らしていたのか、今回、初めて聴くことができ、本当にお会いできて良かったと思います。

福富：若い頃は多くの友人がいました。友だちをつくり易いところだったんです。

しかし、今はそうではありません。若いときはたくさんの友人がいて、いろんな人に出会って…本当に幸せでしたが、みんな離散してしまいました。今は散り散りになって…そういうことを思い出すと涙が出てきます。

吉田：そうですね。

福富：会いたいけれど、どこに住んでいるのか…全く分かりません。

吉田：そうですね、そういう気持ち…本当にそうですね。私も悲しく思います。

福富：もし、できるならば…私は軍艦島で生きて年老いて、そのままそこで生涯を過ごしていただろうと思いますが、途中で閉山になってしまい…とても残念です。

私は最高に良い島だったと思っています。

吉田：私も最高に良い島だったと思っています。軍艦島が世界遺産になるまで頑張って活動していきたいと思います。

福富さんといろいろなお話しをしました。彼のお兄さんとお母さんはまだご健在で、お母さんは85歳になられます。私が写したビデオや写真をお母さんにお見せしましたが、それを見て、ショックを受け悲しんでらっしゃいます。

様々なことがあった35年という月日…、その35年後の廃墟を見て衝撃を受けたという気持ち。その気持ちが私のほうにも痛いほど伝わってきました。

福富さんの家族皆さんは「貴方に会えて嬉しかった」とお礼を言ってくれましたが…。

長崎ろう学校の卒業生の方に、島で暮らしていた福富さんが存在であることを教えてもらい、一緒にやってきました。そのおかげでお話しすることができました。

次に軍艦島への上陸を拒否された問題についてお話ししたいと思います。長崎市の方針を表している文書があったので、それを画面上に出しています。色を付けている部分に注目してください。車椅子の方も行けるよう、段差等がないように…と長崎市の文書に書いてあります。整備工事に１億円をかけ、車椅子の方も介助して上陸できるようにとの配慮がされているんです。見学ができる範囲は赤で表している部分だけです。

皆さん、この新聞記事はご覧になったでしょうか？読んだ方は「何故だろう？」と疑問に思ったでしょう？私は本当に腹が立ちました。この記事を投稿した張本人が私です。時間の関係上、簡単にしか話せませんが、４月22日に一般公開が始まった後、上陸クルーズに参加しようと申し込んだけれど、拒否されたんです。そこで、長崎県の情報提供施設の方…この会場に参加されています…と一緒に行き、受付で説明をしました。電話やメールでは埒が明かないので、一緒に現地まで行ってくれたんです。

【軍艦島クルーズ窓口でのビデオ映像】

軍艦島上陸コースに参加しようと思ったけど、窓口の段階で拒否されました。これは、ろうあ者差別ではないでしょうか？　私は非常に腹が立っ

ています！

長崎の情報提供施設に行って事情を話し、みんなで力を合わせて交渉しようとここにやってきました。今、施設長の本村さんが通訳者を介して交渉中です。非常に腹が立っています！

交渉に１日２日かかるだろう、ろうあ者は参加できるのかどうかわからない…という状況で、仕事があるので帰らなければならない人もいました。拒否されたことは本当に腹立たしく、西日本新聞・朝日新聞等、いろいろな新聞社に投稿しました。それが全国的にも広がりました。日聴紙にも掲載されました。

軍艦島を世界遺産にする会理事長　坂本道徳さんにも連絡したところ、彼も腹を立てて「軍艦島を世界遺産にするために頑張りたい、そのためにも一人一人が大切なお客様だ！ろうあ者を差別するなんてひどい！」と言ってくれました。
理事長・坂本道徳さんが現地まで交渉した。非常に腹が立っています。そして、別の方法がある…と、他の船会社を紹介してくれました。そちらは、全員ろうあ者でも大丈夫でした。

例えば、大阪に行こうと思ったとき、もし新幹線が事故などで動いてないとしたら、飛行機などの別の代替え交通機関を使って移動しますよね。それと同じように別の船会社を利用するということです。

上陸ツアーに申し込む際、長崎国際観光コンベンション協会会社の誓約書があるのですが、こちらの船会社の誓約書は素晴らしいと思いました。拒否されたやまさ海運株式会社の誓約書と比較してみます。（画面上に両方の誓約書が写る）６番目の項目に注目してください。拒否した船会社の誓約書の中で、私が腑に落ちなかったのは、13歳未満…小学生の場合は保護者が同行してその管理の下であれば許可する。または足、腰の状態が弱ってきたお年寄りの場合は保護者が同行してその管理の下であれば許可する。となっているんです。

ちょっと待ってくれ！私は通訳者と一緒に行っているのにダメなのか？何故、拒否される？小学生は保護者が同行ならば「どうぞ」・足、腰の状態が弱ってきたお年寄りは保護者が同行ならば「どうぞ」なのに、私は通訳者付きでもダメ？何と言うことだ！何故なんだ！？皆さんはどう思いますか？ひどい差別です！

６月１日に条件付きという内容に変わったのですが、まだ条件が付いているんですよ。その条件とは、通訳者付きならばどうぞ…但し、ろうあ者５人に対し通訳者が１人付くこと。例えば、ろうあ者６人で通訳者が１人ならばダメだということです。ろうあ者11人なら通訳者が３人必要だということになります。

まだそのような拒否をするのか！と、やりあいましたが…。（情報提供施設の）本村さんには本当にご尽力いただきました。本当にありがとうございます。

申し訳ありませんが、私が軍艦島にどうやって上陸できたのか、何故これらの撮影ができたのか…ということについてはお話しできないので、ご勘弁ください。

時間の制限がある中で、いろいろな部分を端折ってお話ししましたが、端折るという作業も難しいです。ご容赦ください。もし、講演を聴きたいという声があれば、皆さんの地元に出向きます。今も全国あちこちに行って活動している最中です。ご連絡をお待ちしています。

軍艦島を世界遺産にする、その活動も続けていきます。私だけでなく、皆さんもどうぞ力を貸してください。力を合わせて活動していきたいと思います。よろしくお願いします。最後までご覧いただき、本当にありがとうございました！